

カメラ映像を、 意思決定に使うために。

映像解析AIで「何ができて、何ができないか」を整理する

人の動き、物体・車両、顔や手、人の流れ。カメラに映っているものを認識するAIは、すでに現場で使える技術になりました。一方で「何から始めればよいか分からない」「SDKを買ったが自社で作れない」という声も多く聞きます。本資料では、映像解析AIでできることを4つの領域に整理し、提供形態の選び方、費用が動く要因、失敗しない進め方までをまとめました。

人の動きの解析

物体・車両の検知

顔・手の認識

人流分析

PoCからの進め方

株式会社vartique

XR・AIで企業の可能性を、広げる。

2026年9月版

全12ページ

CONTENTS

目次

01	映像はあるのに、活かせていない 現場で起きている4つのつまずき	P.3	06	導入の進め方 小さく試して、確かめてから広げる	P.9
02	映像解析AIでできること 人の動き／物体・車両／顔・手／人流の4領域	P.4	07	費用の考え方 何によって費用が動くのか／抑えるための考え方	P.10
03	提供の形は、ひとつではありません ブラウザ・専用ソフト・組み込み／クラウド・端末内	P.6	08	よくあるご質問 個人情報・カメラ・精度・体制について	P.11
04	SDK導入との違い 「エンジンを買う」と「使える形まで作る」の差	P.7	09	会社概要・お問い合わせ ご相談はオンライン30分から承ります	P.12
05	用途別のソリューション おどりナビAR／車両・物体判定／人流分析／作業・安全	P.8			

この資料について

本資料は、映像解析AIの導入を検討されている企業・自治体のご担当者向けに、技術の選び方と進め方を整理したものです。特定の製品を売り込むことよりも、「自社の課題に映像解析が向いているかどうか」を判断していただくことを目的としています。個別の実現可否については、実際の映像を1本お預かりすればより具体的にお答えできます。

ISSUE

カメラは増えたのに、判断材料は増えていない

防犯カメラ、タブレット、スマートフォン。映像を撮る手段は十分に揃いました。それでも多くの現場で、映像は「何かあったときに見返すもの」のまま止まっています。ご相談の入り口は、だいたい次の4つに分かれます。

録画はしているが、誰も見返していない

映像は蓄積されているのに、そこから通行量や滞在時間といった数字が取り出せていない。結果、売場改善や人員配置の判断は、これまで通り勘と経験で行われている。

目視の確認作業に人手がかかっている

車両の判別、通行量の計測、現場映像のチェック。人が張り付いて数える作業が残っており、担当者の時間と、数え間違いのリスクを抱えたままになっている。

動作や作業のばらつきを、言葉でしか伝えられない

教育・研修・技能伝承の場面で、「もう少し腰を落として」といった感覚的な指導に頼っている。映像を見せても、どこをどう直せばよいかが本人に伝わらない。

SDKを導入したが、使える形にできなかった

映像解析エンジンを調達したものの、それを現場で使うアプリや画面は自社開発が前提だった。開発リソースが確保できず、PoCで止まってしまった。

共通しているのは「解析エンジンの性能」以前の問題です

映像解析の導入がうまくいかないとき、原因が認識精度そのものにあることは多くありません。現場の制約（端末が配れない／通信が不安定／映像を外に出せない）に合う**提供の形**が選べていないか、**解析結果を誰がどう見て、何を判断するの**かが決まっていないか。多くはこのどちらかです。本資料の以降のページは、この2点を決めるための材料として構成しています。

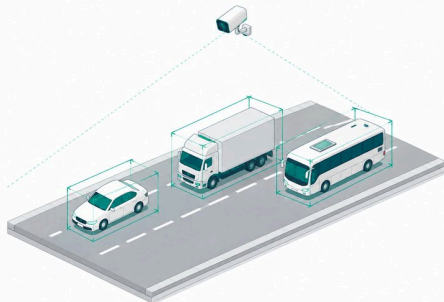
WHAT WE DO

「何を認識するか」を、用途に合わせて作ります

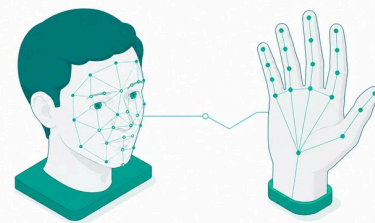
既製パッケージの導入ではありません。認識する対象、判定のルール、画面や連携先までを、課題に合わせて設計・開発します。当社が手がけている領域は、大きく次の4つです。



人の動きの解析／骨格・関節を検出し、お手本との一致度、フォームの崩れ、危険動作などを数値で判定します。



物体・車両の検知／映像内の対象を検出・分類・計数します。車両の判別、通行量の把握、確認業務の省力化に。



顔・手の認識／顔や手・指の動きをリアルタイムに認識し、非接触操作やインタラクションに活用します。



人流分析・混雑の可視化／通行量、エリア別の滞在時間、動線ヒートマップを自動集計します。

4領域はすべて「映像から対象を認識する」同じ土台の上にあります

当社の中核は、ARコンテンツの開発を通じて積み上げてきた、人物の体・手・顔のリアルタイム認識技術です。そのため、複数の領域を組み合わせた構成（例：人流を数えながら、危険エリアへの侵入も検知する）にも対応できます。

DETAIL

4つの領域で、それぞれ何が取れるのか

「映像解析でできること」は抽象的になりがちです。実際に出力として手元に残るものを、領域ごとに整理しました。

領域	認識するもの	出力として得られるもの
人の動き	体の関節位置、部位ごとの角度、時系列の動きの変化	お手本との一致度スコア、部位別の正確さ、崩れた時間帯、危険動作の検出
物体・車両	対象物の位置・種類・数、通過の有無と向き	検出数・分類結果の集計、通過台数、対象が映った時刻の一覧
顔・手	顔の位置・向き、手や指の形と動き	非接触のジェスチャー操作、視線や注目の方向、体験コンテンツへの反映
人流	人物の位置と移動の軌跡、滞留の濃淡	ユニーク人数、エリア別滞在時間、動線ヒートマップ、時間帯別推移、CSV・レポート

組み合わせた例

店舗

人流で通行量と立寄り率を測りつつ、レジ前の滞留を検知して応援を呼ぶ。売場改善と混雑対策を同じ映像から行う構成。

工場・作業現場

作業者の動きを解析して標準作業とのズレを可視化し、あわせて危険エリアへの立ち入りを検知する。教育と安全管理を一体で運用。

イベント・施設

来場者数と滞在時間を集計しながら、体験ブースでは顔・手の認識を使った非接触コンテンツを提供する。

※ 認識できる対象と精度は、カメラの角度・距離・明るさ・対象の重なり方によって変わります。実際の映像で確認したうえでご判断いただく進め方をおすすめしています。

OUR STRENGTH

現場の制約に、提供形態のほうを合わせます

映像解析の導入が止まる原因の多くは、技術ではなく運用条件です。「アプリを配れない」「通信が不安定」「映像を外部に出せない」。当社はこれらの制約に合わせて、提供の形と処理の場所を選べる構成にしています。

提供の形を選ぶ

提供形態	向いている場面	前提・注意点
Webブラウザ	不特定多数が使う／端末を配れない／短期のイベント。URLやQRを開くだけで使える。	端末のブラウザとカメラが使えることが前提。インストール作業は不要。
専用ソフトウェア	常時稼働させたい／PCの性能を使い切りたい／社内の管理端末で運用。	配布とアップデートの運用ルールが必要。Windows等を想定。
既存システム連携・組み込み	いまの仕組みを変えたくない。解析結果だけを流し込みたい。	連携先の仕様確認が必要。工数はWebのみの構成より増えます。

処理する場所を選ぶ

端末内で処理

映像を外に出さない構成

解析を端末側で完結させます。顔や映像をクラウドへ送信しないため、個人情報の要件が厳しい現場でも検討しやすくなります。通信が不安定な場所でも動作します。

クラウドで処理

大量の映像をまとめて処理する構成

録画済みの映像を大量に解析したい場合や、複数拠点の結果を集約したい場合に向きます。端末側の性能に依存せず、重い処理も実行できます。

企画から運用までワンストップ

AI・XR・Web・UIデザインを内製で担当。要件が固まりきっていない段階からの伴走や、実証実験からの立ち上げにも対応できます。

COMPARISON

「エンジンを買う」のか、「使える形まで作る」のか

映像解析の調達方法は大きく2通りあります。どちらが良い・悪いではなく、社内に開発リソースがあるかどうかで適切な選択が変わります。判断のための比較として整理しました。

観点	SDK・エンジンの調達	当社の受託開発
提供されるもの	解析エンジン（開発キット）。認識結果をプログラムから取り出せる状態まで。	解析に加えて、実際に現場で使う画面・操作・出力・連携までを一体で開発。
導入後に必要な作業	自社またはベンダーでのアプリ開発が前提。画面・保存・権限設計も自前。	運用開始まで当社が担当。社内に開発リソースがなくても進められる。
要件の固まり方	仕様が固まっていることが前提になりやすい。	「何ができるか分からない」段階からの整理・伴走に対応。
提供形態の自由度	対応プラットフォームは製品側の仕様に依存する。	ブラウザ・専用ソフト・組み込みから、現場に合わせて選べる。
個人情報の扱い	クラウド送信が前提の製品もあり、要件に合わない場合がある。	端末内で完結させ、映像を外部に送信しない構成に対応。
向いているケース	社内に開発チームがあり、自社プロダクトへ長期的に組み込みたい。	現場の課題は明確だが、作る手が足りない／まず小さく試したい。

技術的に難しい点は、正直にお伝えします

映像解析は万能ではありません。カメラの角度が浅い、対象が小さすぎる、人が密に重なる、夜間で明るさが足りない——といった条件では、期待した精度が出ないことがあります。当社はご提案の段階で、できることとできないことを分けてお伝えします。無理に要件を通すより、実際の映像で確認してから判断していただくほうが、結果的に早く進みます。

PRODUCTS

すでに形になっている4つの領域

ゼロからの開発だけでなく、既に開発済みの仕組みを土台にして、用途に合わせて調整する進め方もできます。その場合、期間と費用を抑えられることが多くあります。

人の動き**おどりナビAR**

お手本の動画を1本アップロードするだけで、AIが自動でお手本データに変換。カメラの前で真似して動くと、体のパーツごとに一致度を解析し、その場で点数にします。教育・介護・スポーツ・工場の作業分析・イベント・自治体まで応用できます。

▶ **専用の詳細資料をご用意しています**

人流**人流分析ツール**

カメラ映像から通行量・エリア別の滞在時間・動線ヒートマップを自動集計し、HTMLレポートとCSVを出力します。店舗の売場改善、イベントの効果測定、出店候補地の通行量調査、混雑把握に活用できます。

▶ **専用の詳細資料をご用意しています**

物体・車両**車両・物体の判定AI**

走行車両の判別、通行量の把握、現場映像からの対象検出など。目視や手作業で行っている確認・計数業務の省力化に用います。判別したい対象と条件をお聞きしたうえで、実現方法をご提案します。

個別にご相談ください

作業・安全**作業分析・安全管理AI**

工場や作業現場の動作を解析し、負担のかかる姿勢や危険動作を検出します。熟練者の作業映像を基準として登録し、実際の動きとの差を可視化する使い方にも対応。当社の安全教育コンテンツと組み合わせた展開も可能です。

個別にご相談ください

※ 具体的な開発実績については、ご相談の際に用途に近いものをご紹介します。

FLOW

小さく試して、確かめてから広げる

映像解析は、実際の現場の映像で確認するまで結果が読み切れない領域です。そのため当社では、いきなり本開発に入るのではなく、実証（PoC）を挟む進め方をおすすめしています。

STEP 1**ヒアリング**

解決したい課題と、現場の制約（端末・通信・個人情報）を伺います。オンライン30分から。

STEP 2**ご提案・お見積り**

実現方法・提供形態・期間・費用をご提示します。技術的に難しい点は正直にお伝えします。

STEP 3**試作・実証**

まず小さく作り、実際の現場で試します。ここで精度と使い勝手を確認します。

STEP 4**本開発・運用**

結果を踏まえて本開発へ。公開後の改善・運用まで一緒します。

最初の打ち合わせでお聞きしたいこと

次の5点が分かると、初回のご相談で実現可否とおおよその費用感までお答えできます。すべて決まっている必要はありません。

- ✓ **何を認識したいか**／人の動きなのか、物体なのか、人数なのか
- ✓ **誰が、どこで使うか**／担当者だけか、来場者や住民も使うのか
- ✓ **端末と通信の条件**／端末を配れるか、ネットワークは安定しているか
- ✓ **映像と個人情報の制約**／映像を外部サーバーに出してよいか
- ✓ **いつまでに、どのくらいの予算で**／上限がある場合はその範囲でご提案します

現場の映像を1本お預かりできると、話が早く進みます

実際に使う予定のカメラ映像や動画を1本いただければ、その映像から何がどこまで取れるかを確認してお返しします。「この映像で何ができますか？」というご相談の形で構いません。

PRICE

定価はありません。費用が動く要因をお伝えします

認識する対象・必要な精度・提供形態・対応端末の数によって、費用は大きく変わります。そのため一律の価格表をご用意していません。かわりに、何によって費用が上下するのかを公開します。予算に上限がある場合は、その範囲で何ができるかをご提案します。

費用が上がる要因	内容	抑えるには
認識対象の難しさ	特殊な物体、暗所、遠距離など、学習データの追加が必要な場合。	既存の認識モデルで足りる範囲から始める
求める精度	誤検知が許されない用途ほど、検証と調整の工数が増えます。	まず実証で必要精度を見極める
提供形態	専用ソフトや既存システム連携は、Webのみの構成より工数が増えます。	Webで検証してから提供形態を決める
画面・管理機能	管理者向けダッシュボードや記録管理を伴う場合。	初期は解析部分のみで検証する
対応端末・拠点の数	端末やカメラが増えるほど、設定・検証・処理環境の工数が増えます。	代表的な1〜2か所で効果を確認してから広げる
リアルタイム性	常時監視して即座に通知する構成は、録画をまとめて解析するより高くなります。	録画のバッチ解析から始める

PoC（実証）からのご相談を多くいただいています

いきなり全社・全拠点への導入を決めるのではなく、1か所・1台・1つの売場から始め、効果を確認してから広げる進め方です。投資判断の材料が実データで揃うため、社内稟議の説明もしやすくなります。

予算に上限がある場合

「この金額の範囲で、何ができますか」というご相談で構いません。優先度の高い指標や機能から順に組み、範囲を区切ったご提案をします。できないことを無理に約束することはしません。

FAQ

よくあるご質問

Q 撮影した映像は外部のサーバーに送信されますか？

A 要件に応じて選べます。解析を端末内で完結させる構成にすれば、顔や映像をクラウドへ送信しません。個人情報保護の要件が厳しい現場でもご検討いただけます。

Q 専用のカメラやセンサーは必要ですか？

A 基本的に不要です。タブレット・スマートフォン・PCの一般的なカメラや、既設のネットワークカメラで動作する構成を想定しています。深度センサーやマーカの装着も必要ありません。

Q Webブラウザ以外の形でも提供できますか？

A できます。Windows等の専用ソフトウェア、既存システムやカメラへの組み込み、業務システムとの連携など、運用に合わせた形で開発します。まずどの形が適しているかの整理からご相談いただけます。

Q どのくらいの精度が出ますか？

A カメラの角度、対象の大きさ、重なり具合、明るさによって変わります。そのため、実際の映像で確認してからご判断いただく進め方をおすすめしています。映像を1本お預かりできれば、どこまで取れるかを確認してお返しします。

Q まず小さく試すことはできますか？

A 可能です。実証実験（PoC）からのご相談を多くいただいています。実際の現場で精度と使い勝手を確認したうえで、本開発に進む進め方をおすすめしています。

Q 他社の姿勢推定エンジンとは何が違いますか？

A 多くの製品はSDK（開発キット）としての提供で、導入企業側でアプリを開発する必要があります。当社は解析エンジンだけでなく、実際に使える画面や連携までを一体で開発します。

Q 要件がまだ固まっていないのですが相談できますか？

A 問題ありません。「映像で何かできないか」という段階からのご相談も承っています。技術的にできること・できないことを整理するところから一緒にします。

Q 自治体・学校でも導入できますか？

A 対応しています。端末内で解析を完結させ、氏名ではなく番号で管理するといった、個人情報の取り扱いに配慮した設計にできます。要件をお聞きしたうえで構成をご提案します。

映像で解決したい課題を、お聞かせください

「こういうことはできますか？」という段階のご相談で構いません。技術的な可否、適した提供形態、おおよその費用感をお伝えします。オンラインでの打ち合わせは30分から承っています。

お問い合わせ <https://www.vartique.com/contact-form/>

お電話 03-6822-8929（平日 10:00～18:00）

メール n.akizumi@vartique.com

サービス紹介 <https://www.vartique.com/video-ai/>

COMPANY

会社概要

会社名 株式会社vartique（カブシキガイシャ バルティーク）

代表者 代表取締役 秋炭 直輝

所在地 〒102-0084 東京都千代田区二番町9番3号

電話番号 03-6822-8929

事業内容 AR・VR・メタバース（XR）コンテンツの企画・開発、WebAR制作、AI画像・映像解析の受託開発、企業・自治体向けソリューション提供

Webサイト <https://www.vartique.com/>

関連資料

本資料のほかに、用途別の詳細資料をご用意しています。ご希望の方はお問い合わせフォームよりご連絡ください。

- ・ [おどりナビAR 活用ガイド](#)／動画1本から始める動作採点AIの導入資料
- ・ [人流分析 導入ガイド](#)／カメラ映像で通行量・滞在時間・動線を測る方法と選び方